

平成30年度事業計画

平成30年度事業予算

I	基本的方向	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 頁
II	事業計画	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 頁
III	事業予算	・・・・・・・・・・・・・・・・	5 頁

I 基本方針

当財団は、平成28年7月25日設立し、公益目的各事業等を着実に行ってまいりました。特に、平成29年10月27日登記の定款の改定により、当財団の目的を第3条で「この法人は、特別支援学校のスポーツ振興に関する事業を行い、障害のある児童生徒の健全な発達に寄与することを目的とする。」と明確化し、専ら本道特別支援学校のスポーツ振興に寄与する事業を進めます。

また、平成29年度第6回理事会においては、堀理事の緊急提案により、本年4月からの公益財団法人化への移行申請を北海道庁に行います。

このことを踏まえ、平成30年度は、以下に示す事業計画に基づき事業の推進に努めてまいります。

1 定款第4条1のフットサル等スポーツ活動の普及

1-1 スポーツ用品の寄贈

1-2 フットサル指導員・道徳科授業等への派遣

1-3 フットサル研修会の開催及び研究成果報告会の開催

2 定款第4条2のフットサル等競技会の開催・助成

「2018 第2回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会」

平成30年7月27日(金)午前9時、会場は真駒内セキスイハイムアイスアリーナ

3 定款第4条3のフットサル等スポーツ活動の調査・研究

3-1 スポーツ活動に係る実践研究校の指定

3-2 障がいの程度・状況が進行するなどしている児童生徒のスポーツ活動の研究助成

Ⅱ 事業計画

1 定款第4条1のフットサル等スポーツ活動の普及

1-1 スポーツ用品の寄贈

定款第4条第1号事業は、道内特別支援学校72校(道立65校、市立5校、国立1校、私立1校)の5障がい種別(視覚障がい4校、聴覚障がい7校、知的障がい49校、肢体不自由10校、病弱2校)道内知的障がい特別支援学校へのフットサル用具(ボール及び室内ポップアップゴール)及びボッチャの普及にかかる事業である。

助成内容は、次の組合せで助成する。

・Aセット(ゴール1組と3号球2ケ + 配送料3,800円	計18,326円)
・Bセット(ゴール1組と4号球2ケ + 配送料3,800円	計17,138円)
・Cセット(ゴール1組と3号、4号球各1ケ+配送料3,800円	計17,732円)
・Dセット(ゴール2組 + 配送料4,800円	計21,972円)
・Eセット(ボッチャ用ボールセット + 送料1,300円)	計22,144円)

平成30年度は、道内特別支援学校72校を対象に寄贈することから、約950,000円を予算化する。

1-2 フットサル指導員・道徳科授業等への派遣

平成30年度は、高等養護・高等支援学校で、札幌から遠距離にある道南、十勝、道東、オホーツク、道北にある5校と札幌近郊5校の計10校の派遣を考える。

派遣するフットサル指導員等は、Fリーグ「エスポラーダ北海道」監督及び明日佳グループの障がい者施設等に勤務するOB選手を1校2名を基準として派遣する。

自家用車の借上げ基準として、札幌市から当該学校までの距離(1km30円)に応じて支払うとともに、活動・宿泊費として、1日当たり10,000円と旅行保険も保証する。

なお、宿泊を伴わない札幌市近郊の派遣費は、一律3,000円を支払う。

1-3 「フットサル研修会」及び「研究成果報告会」の開催

道内特別支援学校の多くは寄宿舍を併設していることから、教員だけではなく、寄宿舍指導員や、現在の教員の働き方の改善に伴う事務職員の部活動等の指導の充実も求められている。このことから、1年間を通して、室内で、かつ少人数でもスポーツ活動が可能なフットサルの知識・技能の向上を目的とした研修会を開催する。この研修会開催日は、「研究成果報告会」と同日開催とする。

平成30年度は道立特別支援教育センターで報告会を開催し、同センター近くの特別支援学校体育館で等フットサル研修会を開催する。

札幌市在住の学校職員以外の者には都市間バス代金を、また前泊が必要な者には5,000円を助成する。この経費は、各校1名の参加として、約700,000円を予算化する。

2 定款第4条2のフットサル等競技会の開催・助成

本事業は、平成29年度18校が出場した。平成29年12月調べでは、平成30年度開催「2018第2回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会」への参加希望校は、カテゴリー1(中高等部校)7校、カテゴリー2(高等部校)22校、計29校、生徒・引率者数259名が参加希望をしている。

平成30年度大会は、7月27日(金)、真駒内セキスイハイムアイスアリーナで開催する。

平成30年度の前泊宿舎は札幌市保養センター駒岡と北海道青少年会館、後泊は北海道青少年会館を相当数の予約をしている。

助成内容は、札幌市在住の生徒以外について、生徒8名分の都市間バスの学校所在地から札幌市ターミナルまでの障がい者割引相当分と、引率者はカテゴリー1は4名分、カテゴリー2は3名分の都市間バス代を助成する。また、大会当日午前9時の開会式に間に合わない学校は前泊の宿泊助成、大会当時の閉会式後、午後7時程度までに学校所在地に到着しない学校には後泊の宿泊助成を行う。

◎大会開催経費の概算 約3,500,000円

- 1 移動助成費 1,150,000円
移動助成費は、生徒の身体障害者割引及び引率者割引を使用し、都市間バス代の半額を助成する。 合計1,150,000円
- 2 宿泊助成費 1,548,000円
26日 児童生徒・引率者150名、運営スタッフ5名 計155名 @6000円 合計930,000円
27日 児童生徒・引率者100名、運営スタッフ3名 計103名 @6000円 合計618,000円
※運営スタッフ38名(除く、北の杜ライオンズクラブ)
- 3 会場費 30,000円
セキスイハイムアイスアリーナへの減免申請で無料。
会場作成のためのラインテープ 30,000円
- 4 運営費 296,000円
 - ・運営役員会議費(5回委員会 交通費1,000円+会議出席2,000円 ×6名 18,000円
 - ・宿泊支援謝費 26日 交通費1,000円+半日業務2,000円+夜間2000円 6名 30,000円
27日 交通費1,000円+1日業務5,000円+夜間2000円 4名 32,000円
 - ・会場作成(エスポラーダ北海道) 20名×交通費1,000円+半日業務2,000円 60,000円
 - ・審判等謝費(エスポラーダ北海道) 20名×交通費1,000円+1日業務5,000円 120,000円
 - ・大会本部運営謝費 6名×交通費1,000円+1日業務5,000円 36,000円
- 5 表彰費 100,000円
 - ・小野寺眞悟杯優勝・準優勝・3位2ケ、優秀賞5ケ、小野寺眞悟賞2ケ × 2カテゴリー
- 6 昼食費 205,000円
生徒・引率260名(最大330名)、役員・ボランティア計70名(最大80名) 約330食(最大410食) 最大410食 205,000円
- 7 大会要項600部印刷 100,000円
印刷・製本は北海道札幌稲穂高等支援学校環境・流通サポート科、表紙デザインは北海道八雲養護学校高等部に依頼
- 8 その他 雑費等

3 定款第4条3のフットサル等スポーツ活動の調査・研究

3-1 スポーツ活動に係る実践研究校の指定

道内特別支援学校でフットサル等のスポーツ活動を障がいの状況に応じて適切に実施するための工夫や、地域の人々との交流活動を促進する工夫などを、実践的に研究し、その成果を整理し、道内各学校がその成果を踏まえて、より充実した活動を図ることができるよう、1校100,000円の研究助成を行う。3校を目途に研究実践校依頼する。

また、各校の実践研究成果を整理した報告書を発行(200部印刷、100,000円)し、道内各学校及び関係機関等に配布する。このため、3-2と併せて400,000円を予算化する。

3-2 障がいの程度・状況が進行するなどしている児童生徒へのスポーツ活動の研究助成

障がいの程度・状況が進行するなどしている児童生徒のスポーツ活動の活発化を図るステップスポーツの用具などの工夫等とプール指導等の研究に係り10万円を助成する。

Ⅲ 事業予算

平成30年度の収支予算案を以下の通り作成いたしました。精査の上、承認を求めます。

平成30年度収支予算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				小計	法人会計	内部取引消去	合 計
	スポーツ活動の普及事業	競技会の開催助成事業	スポーツ活動の調査・研究事業	共通				
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0		0
基本財産受取利息					0			0
受取寄付金	0	0	0	6,000,000	6,000,000	1,920,000		7,920,000
受取寄付金					0			0
受取寄付金振替額				6,000,000	6,000,000	1,920,000		7,920,000
雑収益	0	0	0		0	0		0
受取利息					0			0
雑収益					0			0
経常収益計	0	0	0	6,000,000	6,000,000	1,920,000	0	7,920,000
(2) 経常費用								
事業費	1,970,000	3,530,000	500,000	0	6,000,000	0		6,000,000
支払助成金	1,559,456	2,698,000	400,000		4,657,456			4,657,456
旅費交通費	100,000				100,000			100,000
会場費	50,544	30,000			80,544			80,544
諸謝金	250,000	296,000			546,000			546,000
表彰費		100,000			100,000			100,000
食糧費		205,000			205,000			205,000
印刷費		100,000	100,000		200,000			200,000
消耗品費		101,000			101,000			101,000
保険料	10,000	0			10,000			10,000
管理費	0	0	0	0	0	1,850,000		1,798,400
役員報酬					0	120,000		120,000
給料手当					0	600,000		600,000
旅費交通費					0	280,000		280,000
委託費					0	212,000		212,000
租税公課					0	50,000		50,000
支払手数料					0	86,400		86,400
通信費					0	50,000		50,000
食糧費					0	200,000		200,000
消耗品費					0	51,600		
予備費					0	200,000		200,000
経常費用計	1,970,000	3,530,000	500,000	0	6,000,000	1,850,000		7,850,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0		0
当期経常増減額	△ 1,970,000	△ 3,530,000	△ 500,000	6,000,000	0	70,000		70,000
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0		0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0		0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 1,970,000	△ 3,530,000	△ 500,000	6,000,000	0	70,000		70,000
法人税、住民税及び事業税					0	70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	△ 1,970,000	△ 3,530,000	△ 500,000	6,000,000	0	0		0
一般正味財産期首残高								1,256,016
一般正味財産期末残高								1,256,016
II 指定正味財産増減の部								
基本財産運用益								0
基本財産受取利息								
受取寄付金								8,000,000
受取寄付金								8,000,000
一般正味財産への振替額								△ 7,920,000
当期指定正味財産増減額								80,000
指定正味財産期首残高								3,000,000
指定正味財産期末残高								3,080,000
III 正味財産期末残高								4,336,016